



三  
川  
集  
卷  
六

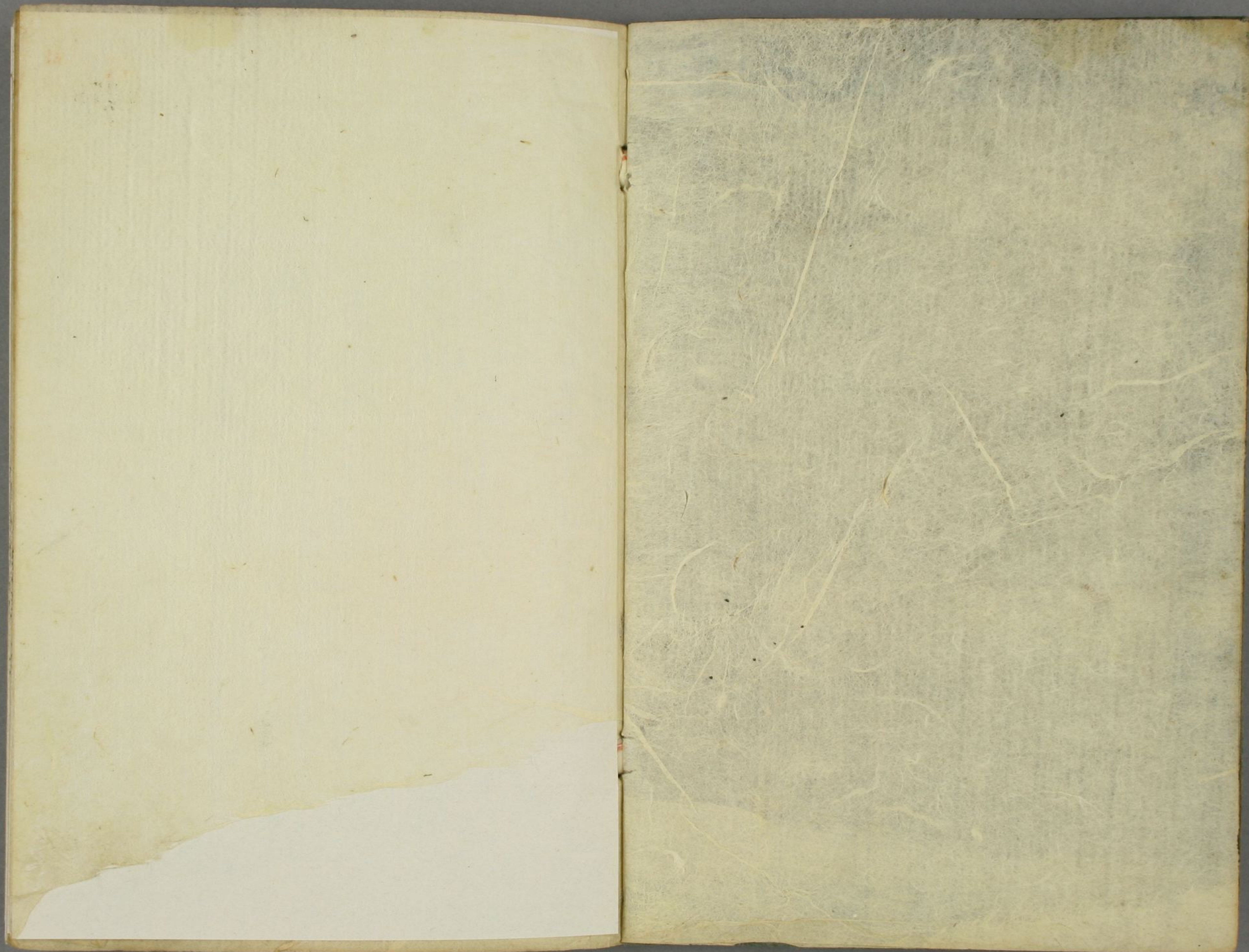
5  
1979  
3

三川集

三川集









特  
5  
1979  
3



崑山集卷之三之上目錄

色田  
表鳥  
表雁  
燒野  
小朱花  
茶摘  
若點

尚代  
雲雀  
維子  
沉了花  
木仇花  
蛭  
莖





胡蝶

巳日積

三月三日

永日

藤

三ヶ所念佛

雜書

昔者

公家苑

桃

曲水

躑躅

春祭

御身拭

春部云

崑山集卷之三

春部

返田付苗代

春水の苗代為と先手那

志のや懸るるくつと田う地

志のくつとくつとん地が

秋さやふと田つとけうら甲

ふとくつとふとくつとめう田外

わさうふと田つとけう神

康耳

樹也

森初兵

坂東秋

昌漢

安部



花水や身あつられば書物に  
種なりよんて一海田地を

増橋井

貞房

田

角

春鳥

鶯は肉て屋きくや鶯ひ鶯  
啼らぬ家求るまきわじら雀  
けつらひ鳥さう竿や家の折

梅中や巢へ川 吳方雀は子

古坂

夕暮

子鳥の気もあはれとくらむ

鳴るも親のくくやのあの子

日

瑞任海丸の巻

子じまんと巢や雀らるじら親鳥

晴春

折句皆冠折湯の梅

折りかきまきや巢ちのひ雀

新川

玄樾

あはれ子たをけつく十や百子鳥

中津

永春

鴨あや園て王母の百千鳥

三田中村市

玄及

ちのたろうみそとさるまの物

新川

道怡

年の矢の福や鳥まらちたさ

古坂

海成



妻の鶴

登つよの伊三や継尾は鶴の身 晴山は言はれ 安之  
羽折ちや出らざるも成らざる 死

雛子

かみくくは地をからく雛子唄  
きんく伊三を近付を雛子の身  
あみ羽ときせわや雛子賢さち  
よのほくは雛焼とから焼野

鶴の身かみてからと乱と雛子哉  
雛子あつたは伊三の雛子哉  
子比ふくせは成けは雛子哉  
まじつは雛と蛇あは雛子  
殿の鶴もきんつけは雛の身  
子成はくは雛子の身のかみ

季吟

老田

きんくくは老田は雛子の身 月



野の下ふ子ばやうま屋のち維子 信田 政信

あつたあたまきくすし成焼野武 同

大野野のちし焼野維子武 保友

あんきんと焼あさうぬ維子うか 信 康平

深おくし維子のきんけいし御武 中野内茂忠 後庄

坂のちし是も山ちそ維子のち 原 貞

維子うかうく折いきんりし地震 原 友我

五千人きんとついでしし地獄石 原 友我

維子瓶鳴や乾坤の箱根山 信 村

あつた維子やらんちあつた湯儀 信 貞

維そ二羽ちくくちきあつた 信 不存

野ちしあつた成けいと成ちあ 信 政信

維子あつたあつたあつた焼野武 信 貞

あつたあつたあつたあつたあ 信 貞

あつたあつたあつたあつたあ 信 貞

三十一



焼野

まの香やみくら野山と焼野

所相

下野のまきみよと紙屋の焚き

左坂

富吉山や野くま焚き野の煙

白田

紙火をそそこつ焚き野の煙

記所

焚き野の鶴を丸んきく焚き

自長

沈下花

まの目てまきく白ひの沈下花

こやしをあら花やけ香沈下花

三園

ゆつとわら枕の上を沈下花

宗時

繪よの白ひのまきく沈下花

尾崎

未得

おろし花やまきくおろし沈下花

記所

好道

神田をとりつらやまの沈下花

豊美

小来花

のひよのまきくからわ小来花の白

賣りの花をひひるんこく小来花



敬とけつふ朱の花やひまを合 野 政

木の花

まじしこの花やあまのけりあ  
折ふ袖も花とちり〜の地けり

茶摘

ちかきわのまきもさあつら茶  
ほろ只伊りけと播き茶  
ま治山のまきん種集茶摘

橋一茶とまやをまきん種集  
茶とまにほりもまの初り  
ほろまきもまの種よま茶  
鼻紙よまのりまもま茶の那  
大かろまのまや茶や種集  
まろくやま治茶とつま種集  
まろくやま治茶の本やまきん種集  
まろくやま治茶のじりま

豊 友三  
早 未得  
同



宇治多つる可あつた葉も搦ん  
塔村理多 有信  
 極みましたためば搦じ葉搦ん  
母色 祇政  
 鼻の穴わくはつき葉やまをうた  
これ 元晴  
 葉の乳搦るらお葉のゆけが  
是は河田葉 道安

蛙

立上らるるや蛙の奇めを移  
 驚と蛙の奇や奇めをせ  
 軍場へはくた行場をわし蛙

苗代とまじり蛙の軍りか  
 虫水の洗つて伊をくはら  
 軍りも男こはつてあつた  
 高の虫はつたよるわらま蛙  
 かけ田から蛙の奇やぬらほ  
 奇はつては袋もあまらんか  
 軍場の対乃たうやかく蛙  
 とのうまも道心りあつた



池の田母又野よすまふか  
 讀奇の品をなうあつたか  
 衆をける魅い奇の寐しむ  
 仙人やてうあひりてめ  
 水口丹地やそゆらんなく  
 奇軍文衣二乃の魅う那  
 今後ま古奇乃心や川  
 堀川の百首のあまこ  
 堀川の魅軍とをたおるか  
 始まり奇や久方れあ  
 奇よじい生と池の魅う那  
 山の丹のうふれあや奇母  
 奇よれい魅聖頂礼の魅う  
 合戦よめらや二位乃め  
 水林の別苗うみや林系  
 歌よら友なや池の尻

百 康  
 政 元 利  
 信 親 政  
 友 盛 季  
 乃 乃 乃



軍のひまうつらまよひまうつら 晶月

浪の鼓うみの蛙の軍うみ 友吉 貞好

味うひらめ味うや氷の河蛙 梅盛

ま百まめそふ蛙う子まそふ 吉得

舟をめんくまらや蛙の波枕 良保

舟を捨とせしと控らうえん蛙 月

わのまらち跡かへん海のこゆ義 友宣

氷軍うみしとまじやまじうみ 月

うぬ物の舟うみ小園おつらと 晴之

舟の池よまやうてはやえん蛙 正成

二心ちんたかつとわ軍うみ 良保

月舟鳴やえん蛙天のわうみ 佐舟 重紀

氷志うみおうみ出むさかみ 素直 直昌

わのつらとうあうと舟や鳴蛙 梅山 毎延

舟うじやわが舟が舟うみ 保友

金葉の舟うみ 日



船もこて鳴や蛙のさかた

法興寺

蛙の子おや木もうぬき

池のすれひくもるも

池を舟と腹も味も

賀の舟の志井のあま

碇固りあてし

舟續て行へ

らこつて

尼のりらる

舟念佛

舟の流る

あふんて

浪のあや

浄を宗

地

苗代の

日

長

身

正

定

自

後

負

日

晴

夕

倉

重

し

政

則



海をさして人の目くらや危蛙 裕升 清之  
鳴蛙軍旗をくらや矢くらき川 友我

清水奇し

清多て鳴くらき危蛙 中丹 忠幸

只れ子の餓鬼も人の救の軍 安節

時をゆきくらたがりの友とた蛙 政信

さくらうらうめん 正伯

子成 末次

浪のあやそくらくらと危蛙 良徳

女男くら淡儀坊まことわら蛙 長瀬

あやくらも危蛙 川

若の危蛙 川

若鮎

ふの上をくら 多成

氷わら川 多成

くらくら 多成



浅き水とくまきりやぶ船こ

良浦

莖

礎や花しづむまのこころし草

番通さふとくまきりやぶ船こ

暖ぬらひやうてまわつ不莖

花とみく合やあまのす由莖

昔暖かやうくまのこころし草

無莖去の縁かけやうり出

信友

不質

弦みまころ莖と

花のえん治りけりわらわはれ

友名

貞好

ちやく暖い大地のかわつ不莖

日

貞利

花越れを度やたくひはけ不莖

堀野

生有

橋川や寸の糸られ無とこ

竹山

定通

逸初のもくさくはもやとらすれ

留

政信

ひくすいりむむふひのまみ色打

江天

東合

伴海とわらうて麻母よりけこ莖

過

正朝



ぬのりやうじつたのつな中嶋董 貞宣

写人き繪がうゆ多んのこと岩董 董林

久がみわうまことつけ也山董 秋榮

ゆり花の糸もそ蝶乃とみ尾羽白董 正貞

やういふとあてた小野の董夜さく董 盛行

かきそし流りつふら流董の董 龜

表の野系焼のやま董の董 川

花乃ほこつけ吉野の董 信介

余の花みちふは花の董 春將

花乃時遠いぬ江戶の董 正名

花の糸ゆわらぬち板の董 林藤

ほや頼りこめつ保友の董 保友

蝶の子長省野や蜻の董 長久丸

よのほりつけ花が月の董 月

友花と死う蝶や友ちえ



まの野と胡蝶の舞は芝の原が  
花乃ちや胡蝶の舞や露拂ひ  
縁の下に舞もや遊む花こふ  
はまじり二人胡蝶の舞  
物に舟も二舞とらこふ哉  
舞の段和方とめをこ蝶もか  
は茶乃舞まふ舞人のこふ哉  
くま花中一ひ蝶舞や片目しん

いんをたらの舞はのこふか  
花は向ふとまのりし蝶の舞  
遊む今朝集うてふや夏合  
唄ひ舞もてふみ付らあけ  
舞ふ蝶も花とあゆむち中  
まへこふをのまらるは花  
花のちよあひしてわらな  
花蝶のまゆやさあう舞







焼野てい薪の結の蝶の舞

去後大森

勝能

表目野ていわら小蝶や大和舞

紀州赤松

政重

床の因へ死来ら蝶や夜夜舞

大坂仁

定室

本乃母とあつひまやまら小蝶か

大坂仁

笑安

夏とみる蝶は又四睡の卯

兼心主向

昌香

雪舟似てあまう蝶や白拍子

中四市三魚

三次

あれた夏まらいてふくくさく風

何代友井ノ住

月

たうなきいせあんの内々蝶の舞

春をた回ちた

春居

蝶のわら桐の本枕や庭わり

紀州赤松市兵部

春昌

毎冬又う蝶や又のらるる蝶

尾が長徳寺

時正

こしらわら蝶は舞舞かろりま

尾が長徳寺

元与

冬今中しあらし蝶は天女うら

尾が長徳寺

波友

巢かいつと蝶舞もすう胡蝶か

大坂仁

貞貞

花の甘みんともやめけの舞る蝶

徳方里山

俊屋

夏振舞の野けの南産

野接ひへ夏振舞のそふか

い本あり兵部

長秋



眠るはるも今うさうはてふ

去夜交う無未

悦去

友は浪の蝶乃舞りやせいの

友

若時

窓のちれまんの舞花胡蝶

同

蝶と猫の縁か面を

舞蝶のともや猫まのふり

純信三未

時心

花のまか後つと舞ともう胡

南市郎太

一室

恋とてふまの舞えふるう友中

伴梅根

忠久

花蝶は舞くまの花のわごと

三未

梅盛

うつ川も舞よや七賢花胡

蝶

不存

花か今朝夢想ひきまを蝶の

長頭元

玉かたは露みまふ蝶や道はの

同

蝶つらひすんかひ二人志の

同

花みわら蝶やろ共いう二羽

同

花か舞胡蝶は芳野舞か

同

友花やこてふの友は百年

同

普清の場にて



あけぼのくにを花み花まふの

有情のみと上下みまふ

中み非情のみは入てま

の句あらふらんわらわれい

蝶らまといとゆかちるや蝶の舞

句

丸

己日活

えあふぬ美うものひ乃御後

桃

花乃名を桃のあひまろき書

百多みはくるといひみ桃の花

手折んこそくちりみ折るまた

吹らるる花やま風をうりてん

朝日みへ東方咲や園の桃

陰みはちく牛のよなすの桃の

政信



暖桃や瑞木と云じ三年の季吟

大内みさるる花のりも木江戸位康年

仙洞十倍咲りもくれもか堺位在之

桃鹿の赤と急やわくろ花城成方

桃ひさし木城すかた花ころ江戸高定之

はるまゝと春半はさかぬ桃の枝定時

もく花に一つらんちやほくろ吉通高

無のふくまゝとく心あ桃の花中流貞直

八重一重開りも桃花の九輪哉三原

桃花奇気も百人一箇う那吉位ま久

伊の桃の花や言たをぬは是吉位定房

桃花花遊へのりも百たてい尾川一原友我

かあしたる木やうく桃の花盛吉位守栄

三まはりくも花の桃は皮吉位周次

桃花花友やうくもれ子孫んめ吉位舎次

蝶を此寐やうらんちよ桃の花吉位不盈



桃花の匂は功ひゆら程その匂の香

伊丹野

重紀

花の匂は功ひゆら程その匂の香

酒や七草

正伯

はるく牛乳ともあの本はまや時々の

東山草堂

首尾

礫舟で花の鳥をそとどむり

桃

長元

桃の花の多や小町の多ささる

同

仙人の匂はやくなまや桃のやみ

同

三ふとせ城まこりや桃の匂は

同

桃園の味は成てもよこさるるく

同

百歳舟がかりて桃の匂は負りか

同

見事さみ花をそとどむり

同

三月三日 付桃酒

かみお梅柳の酒や佐り花

梅の酒も今日の開きつつかみ

まやらう智恵の味は蓮餅

桃の酒や二日へささく二日酔

桃の酒りりこりへささく二日酔

季文



桃李物いふふ今りの花は

定之

唐蘊のころ桃の酒くじ三々白

正忠

御礼の鳥合とら節は

治向

餅をふりよりころ原もまを

好之

多の福を新しくおき餅

重紀

舟はひともや三月三月の月

改矩

ちきりえん桃の美たりや果は餅

如貞

のこころを言はばくいのまを合

定利

三ヶ月や今日またいとも桃は

良正

りの花ちりくを八節まき

鼎月

りのともあふんころ母桃の酒

久壽

酔と乳坊んちや娘女桃はさけ

孝子

作と今日百画のころ桃のさけ

良保

海をそくちもやうけ桃の酒

一貞

三子年母たり鈍子の桃は酒

尚忠

ふ桃つまやくうゆる桃の泥の取

盛庸



ちきりすくいとんや二方の草餅

長頸作

曲水

あく物色打き曲水は冬んさか

麻田の森村人云

若行

曲水は冬んさかのころおさの月

奥の

友三

奇やまじ曲水なるんお園さか

兼久の

條量

日一といふ曲水の露の那

大坂

好道

えいまぬいふて曲水は曲りな

尾湯

三島

曲水の角あつ三ヶは月

小重

曲水は冬んや冬冬んやゆきけ

貞母

永日

まんねお身すの永日まひか

永日と二日おがまひひつら

永日

高野

永き日お詠國一見ん卒都

永

えう下お身くひ永日永

永日とて感へくすまの夜か



海山とまきげて永き日は  
佐保順へちりるまはれわ子外  
んを日色形く成るる新法師

醍醐へて聖賢を師の願平

大いせんも永き日一はるる

岩林いちりるまはれくわん

まはれぬの葉の半の安きり外

清きまきりふてやまはれぬの薬

自在をらんかまはれ永き其葉

まはれぬの葉のまきりるる紙

躰強

花のうもたれぬと誰かいたる

ゆらぬまよひのまきりるる下

おんの小袖乃るぬれつら

うらまひもむらりさきり解

切人や大てきりちりるる枝

通名

正名

信貞

吉也

正徳

忠久



おみ家の実後の子壇の法は  
野中もやきさうししの餅で  
盛つともくちやさの丹餅に  
はげや花大改後の餅で  
花わじきも丹丸つものり  
ふんふの妙法蓮花はく  
つるゆさの法はのつた  
時をく候ははばれはく

鉄炮のさうめんをさく

鉄炮のつたや花のさうめん  
茶の子もや坊山丸餅で  
根のゆりえ候はくち餅に  
ひらきまら極てもはくち餅  
はくちの極がさうち餅で  
丸くらもさうち餅に  
大極もさうち餅に



山頭のはくや野のまうら

なまふと包しつゝわん繞

まのめ候いたたのつ下か

まゝつらん念力ことし想心候

まゝと申さる心うらるゝも思つ

折りし人も根め茶を餅也

風のふらちも同じもは思ふ

さゝさるゝ候はし時分も思つ

はなとや年れらゝい思つ

候母梅やうゝ命のた思つ

肩と芥のぬ花のめりや思つ

まゝと候はし罪科の思つ

侍のたよみ蓮花はくか

神ちみよ候しと豆餅や餅也

はきさそつらんや名肌りら候

枚み日枝だらつゝのむも成

因對寺

政公

新河

玄樞

信元

信元

津崎

若松

長治

長治

心風

心風

定重

定重

右列海田

右列海田

素久

素久

藤原

藤原

定黒

定黒



松籠花や刀の巻をよ餅作各 夕糸

猿蓑かたて巻を花ん餅作 積業

さけし侍のろ譲へ焼壇の餅作 一治

詩池うまきんあうめん餅作 涼長

舟とまきりけりあもく餅作 友我

てきあうらや羊たわも餅作 正重

あをさうらよてき餅作 角

笑あめありそ餅作 長鏡

ねとまきと賽の餅作 同

祢と山もきり餅作 同

竹の舟舟入餅作 同

花入もあめり餅作 同

はなれもあめり餅作 同

とせのねとま餅作 同

ひとあめり餅作 同

火のなう餅作 同







門あけ市あると地や友は棚  
 友はつらもまよひく桂ふや松の枝  
 友原や沖舟あちら園子乃浦  
 なきまづりそみるや友そん  
 多し此本あつらひるもほあう  
 形乃の是もまよひや友は花  
 を流し花よう祓りい友の何  
 男涙そそ女松あう熱あは花  
 さうら友のうは字ととんた花は  
 友の棚や二階三のい日海浪  
 友は方讀や心の棚さう  
 門口とささくや友乃縄とれ  
 みうんらんきそ蛛もさうら友  
 松人や花の波ら友の二両  
 花水けくあや友はけう縄  
 友痛や花あいにし風毒腫

おん

果 果 果

安明  
 同  
 保友  
 助者  
 持保  
 正忠



咲ぬハ梅道こぐれ田子北浦 過 正朝

梅どつこ三葉うら浪りさうら友 後次

行ふぬい甲斐あり友此力ふ 三河吉田 良晴

水巴の字れくもやぬは花の浪 伊友 正智

とまはつとまらつて友原杜むの棚 友若 貞利

友の花つかみの比やうくろ棚 友若 重宗

花むがししまりの友の棚心 友若 貞好

咲ぬは花梅り道や田子北浦 友若 貞好

二まこの松を友の門りり 桃山 貞

松母あらや位者の市れうか 友 貞友

表巻てかくれぬ友の花う歌 新海老野村 貞友

二尺の花ハ友海のはつさ 新海老野村 重俊

寐入花の長き盛やあは友 新海老野村 正言

花はいてまはれぬ松の友三外 桑江 梅盛

是門の花もや三里さうら友 大坂 海成

友さゆいよの里んつとや松の友 博多 安之



廻舞とほしきよな波のちりり

夜 夕暮

棚とにけれな波や天河

喜 道長

花鈴よなわら氷や波の浪

好道

神木ゆゑなほけりやうの穂

方淑

松の木はのいぬきまやなは浪

林麻

なやあつくうういふなもゆり浪

次良

天津風と怒てなやさうり松

長泰

松風あわらうりわなりのり

同

志は肩あはらたきこやなう

同

水の波ふとそなを鬼う

同

まゝえや人のほくさるな棚

同

かゝるこしは遊人とあう

同

あ日のおかりなははまをうか

同

指ふ枝も志さうは花籠か

凡

春奈付 三ヶ所念佛

蘇我

今しきしるなまうひ系外

三歳



二所

十日のあめやとくく 花盛

伊右

正徳

ちんちん母もも 徳政の六念仏

虎前八景

元辰

子供のあめのかげりてわは念仏

中つ兵衛

長六

徳たまそ 徳もかかろふの念仏

長頼

御身拭

釈迦の徳さひつらきふの御身

拭 位田

政信

御身拭さとかんたも流げり

巻

重右

ゆきとそ三巻之徳集の御身

知登

雑巻

万年とらふそ 徳井の巻はら

正徳もかろ徳白乃 流生うか

徳とまきこめひんいぬ山柳

徳乃江の八景やい浦の巻

徳者

徳は今日あめのまそそひら











竹白くうー表お遊ぶのよき遊

月

表部云

驚乃よりあ〜表あけ部云

表あけけりのきふ部云

来ぬ夏のきちうひるま部云

あぬと約表そふり部云

表あけけり〜あけけり部云

久ぬあけけり〜あけけり部云

中願寺准如上人十三年

忘三月成りり部云

表と〜あけけり

表あけけりからり部あけけりに

正徳

善春

永き日〜あけけりあけけり

あけけりあけけりあけけり

忘花や三月あけけりあけけり

あけけり



花鳥の表はみちや鳴祓り  
あつちや善の表のやうに縄  
今日の花はわさくらに表は善  
表は白のやうに緑のふのくれ  
伊わらちよ来てくまも三月  
穂乃酒香の指はまふか志ゆんか  
は一森かまのめや表はあのみ  
今日御返さんくらんを志の

神  
水也  
安  
清之  
表



